

ルーム・トゥ・リードの女子教育リスク指標： 「2人に1人の女の子が学校に戻らないリスクがある」

女子教育リスク指標について

新型コロナウイルス感染症（以下：COVID-19）拡大時の世界の低所得コミュニティの少女を対象とした最大規模の調査のひとつとして、ルーム・トゥ・リードは「女子教育リスク指標」の結果を発表しました。

この指標の目的は、世界中のジェンダーの不平等に直面している低所得コミュニティの女子教育に対するCOVID-19学校の閉鎖の影響を評価することです。



結果は、ルーム・トゥ・リードの女子教育プログラムに参加している少女の2人に1人（49%）が、学校が安全に再開できる状況になっても学校に戻らないリスクがあることが明らかになりました。

ルーム・トゥ・リードの「女子教育リスク指標」の結果は、自国の学校閉鎖中の約24,000人の少女へのインタビューをもとにまとめられました。インタビューに応じた少女たちは、アジアとアフリカの8カ国（インド、バングラデシュ、ネパール、ベトナム、ラオス、スリランカ、カンボジア、タンザニア）の低所得コミュニティに住む15歳から19歳までの少女たちです。これらの国では、少女が早期に学校を中途退学する率が高いのが一般的です。

インタビューは、2020年4月と5月に電話またはビデオアプリでの通話で行われました。ルーム・トゥ・リードのメンターは、3つの簡単な「はい」または「いいえ」の質問をし、少女が家族からの報復を恐れることなく、正直に答えることができるように行いました。質問は下記の通りです。

- あなたは現在、自宅で自主学習を続けていますか？
- COVID-19の影響であなたの家族の誰かが仕事や収入源を失いましたか？
- 学校が再開したら学校に戻れるか心配ですか？

本報告書では、各質問に対する結果の概要を説明しています。女子教育リスク指標は、国際的な女子教育と教育研究の第一人者であるルーム・トゥ・リードの専門家によって考案されました。

なぜ少女が学校に戻らないリスクがあるのか？

世界中で、ほとんどの子どもたちの学ぶ機会は中断されています。低所得層のコミュニティにいる何百万人もの子どもたちにとって、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の影響による学校閉鎖は、中断ではなく「消失」を意味します。

特に少女たちは、このような状況下で、幼少期を失う危機にさらされています。なぜなら、極度の経済的苦境にさらされている家庭では、若い娘たちを早くに嫁がせたり、児童労働や家事や手仕事のために教育を終わらせる決断をすることが頻繁に起こるからです。1日の収入が1ドル未満の低所得者層の家庭では、この大流行は娘たちの教育に終止符を打つことになるかもしれません。ネパールでは、児童結婚を理由に学校に戻らない少女の例がすでに報告されてい

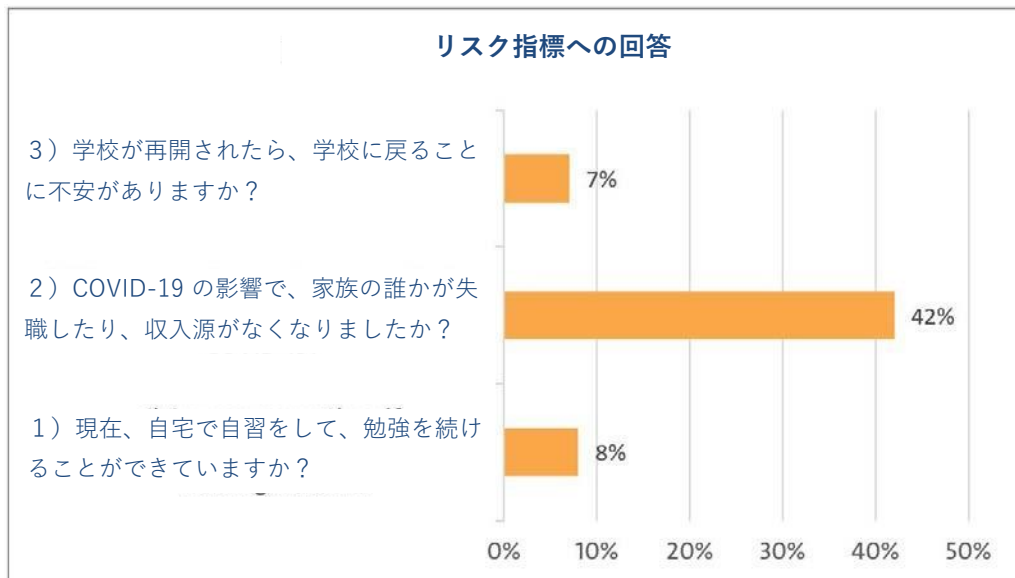
ます。ルーム・トゥ・リードの職員たちが少女の教育を維持するためにかなりの努力をしているにもかかわらずです。

ルーム・トゥ・リードが活動しているいくつかの国では、経済的に不安定な状況にある少女たちは、性的搾取やその他の搾取の犠牲となり得ます。家族がかつてないレベルのストレスに直面すると、家庭内の対立や性的差別による暴力のリスクも高まり、少女の自信や幸福感、人生の重要な決断を交渉する能力に悪影響を及ぼします。

結果

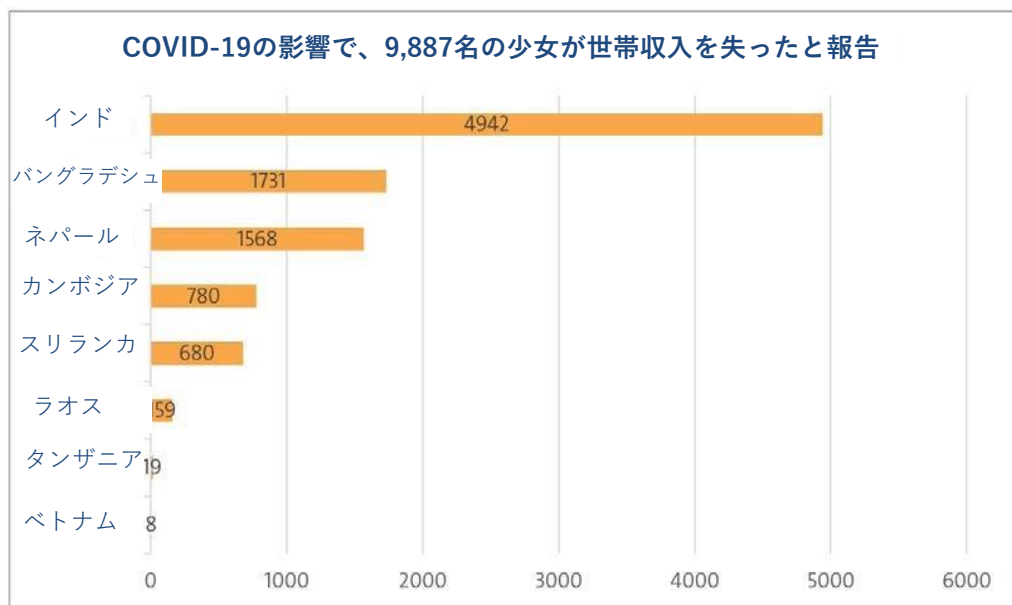
2人に1人の少女（49%）が、少なくとも1つのリスク指標の質問に回答し、学校に戻らないリスクにさらされています。

少女が質問1に対して「いいえ」と答えた場合、または質問2と3に対して「はい」と答えた場合、学校が再開されても学校に戻れない可能性があるというハイリスクのカテゴリーに入ります。



少女の42%が、COVID-19の影響で世帯収入を失ったと答えています。COVID-19による経済的影響は、少女の教育に対する最も大きなリスクとなっています。私たちのリスク指標では、10人に1人（8%）が自宅学習を続けられず、教育が中断しているという心配な兆候も見られました。主な理由としては、デジタルリソースへのアクセスの欠如、教師に助けを求めることができないこと、家族が自分の教育を支援してくれないことなどが挙げられます。

主な懸念材料としては、3つ目のリスク指標の質問があります。「学校に戻れなくなることを心配していますか」という質問では、7%が「はい」と答えています。この数値は高く、パンデミックの最初に来ている高い数字であり、今後数週間から数ヶ月間は注意深く監視する必要があります。



ルーム・トゥ・リードの緊急対応

ルーム・トゥ・リードの女子教育の専門家は、COVID-19による学校閉鎖が教育における男女平等に与える影響を即座に認識していました。ルーム・トゥ・リードの女子教育プログラムの一環として、「ソーシャルモビライザー」と呼ばれるメンターが少女の担当をし、学習を妨げる障害を克服するための指導を行っています。ソーシャルモビライザーは学校閉鎖が始まるとすぐに、電話やビデオ通話、テキストメッセージを使って少女たちに遠隔メンタリングを開始しました。プログラムに参加している少女たちに、5月だけで合計223,690通のダイレクトメッセージを送り、34,241時間に及ぶ遠隔メンタリングセッションを行っています。

ルーム・トゥ・リードについて

ルーム・トゥ・リードは、教育を通じて何百万人もの子どもたちの人生を変え、非識字や男女間の不平等のない世界を創造しています。2000年の設立以来、ルーム・トゥ・リードは世界16カ国、1,800万人以上の子どもたちが教育を通じ、自身の可能性を最大限に発揮できるよう支援してきました。私たちの先駆的な女子教育プログラムは11万4,000人の少女達を支援しており、女子教育が健康、貧困、気候変動、経済など、世界が直面する最大の課題にプラスの波及効果をもたらすことが分かっています。女子教育プログラムの参加者の進学率は96%で、81%が卒業後1年以内に高等教育に進学あるいは就職しています。

ヴァルニの物語

ヴァルニは15歳で、ルーム・トゥ・リード・スリランカの女子教育プログラムに参加しています。学校が閉鎖されたため、実家で生活していましたが、アルコール依存症の父親が夜に暴力を振るうため、残念ながら家の安全が確保できなくなりました。ヴァルニは、ルーム・トゥ・リードのソーシャルモビライザーに状況を伝え、父親もまた、娘の教育を受ける権利を尊重しないことを伝えました。ルーム・トゥ・リードは関連する地方自治体と協力して、父親を説得して学校閉鎖中はヴァルニを叔母と一緒に住ませるよう説得しました。COVID-19の間、ルーム・トゥ・リードの介入により、ヴァルニは安全であるだけでなく、学問的に成功する道を歩んでいます。



バルニの教育を継続させるために踏み込んだルーム・トゥ・リードのメンター

ウルミラの物語

ウルミラはルーム・トゥ・リード・ネパールの女子教育プログラムに積極的に参加しています。ソーシャルモバイラーが遠隔メンタリングの一環として、電話で話をした時、ロックダウンが始まって以来、家族から学校を中退するように言われていることを教えてくれました。ウルミラは家族が持っている唯一のスマートフォンを使ってオンライン授業を受けていましたが、母親と兄は信じておらず、学校をやめる時が来たと言いました。COVID-19によるロックダウンのためにネパール国境で立ち往生している運転手の父親は、普段は娘が教育を受ける必要性に理解を示していましたが、今では妻と息子の味方をして、彼女に退学するように言いました。ルーム・トゥ・リードは緊急で家族会議を行い、オンラインクラスがどのように機能するかを説明し、教育を継続することの重要性を強調しました。幸いなことに、これは成功し、ソーシャルモビライザーは、ウルミラの教育にこれ以上の中断がないことを確認するために、緊密に連絡を取り合うことを計画しています。



自宅で学習するウルミラ